

中学校第2学年 道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
第5校時 (13:40~14:30)
学校名 中学校
対 象 第2学年D組 35名
会 場 教室
授業者 〇〇 〇〇

1 主題名

いじめを許さない心 (C「公正、公平、社会正義」)

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 差別や偏見に関する問題が起きたときに、自己の正義感を奮い立たせ、公正公平を重んじるよりよい社会の実現に向かうための道徳的判断力を育む。
- (2) 教材 「卒業文集最後の二行」(日本文教出版 中学道徳3『あすを生きる』)
(文部科学省 『私たちの道徳 中学校』)

3 主題設定の理由

本主題は、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」

第3章 道徳科の内容 第2節 内容項目の指導の観点

C 主として集団や社会の関わりに関すること

[公正、公平、社会正義] 中学校

正義と公平を重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。

を受けて設定した。

(1) ねらいとする道徳的価値について

人は生まれながらにして、誰もが自由・平等に幸福を追求する権利をもっている。しかし、現実には差別や偏見が存在し、さまざまな人権侵害が起こっている。例えば、どの学校でも発生の想定できる生徒同士の「いじめ」や「嫌がらせ」など、人間関係のもつれに伴う人権侵害の一種であり、喫緊に解決しなければならない課題である。中学生の時期に人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の生き方に関する思考を深めることは重要なことである。

中学生になると、友達同士の会話や行動などから学級の中の違和感に気付くこともあるが、いじめを認識しながら「見て見ぬふりをする」、いわゆる傍観者になっている生徒もいるかもしれない。いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されない。

よりよい社会を実現するためには、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と、力を合わ

せて積極的に差別や偏見をなくそうとする姿勢が求められる。本主題を基に、今後、差別や偏見に関する人権上の問題が起きたときに、自己の正義感を奮い立たせ、公正公平を重んじるよりよい社会の実現に向かうための道徳的判断力を育てたい。

(2) 生徒の実態について

本校は一昨年度まで人権尊重推進校として、様々な活動を行ってきた。肢体不自由学級への理解と交流。LGBTQに関する授業と講演会。その中で生徒たちに多様性を受け入れようとする意識を育んできた。

そのような指導を継続する中で、担任する2年D組の生徒は、他者への十分な配慮ができる生徒が多くいる。一方で、家庭環境などが要因で、いじりやからかいにつながる粗暴な言動の生徒もいる。

いじめは人間の心理から、起きやすくなりにくいという前提に立ち、定期的に「いじめは許されない」というメッセージを発信するための授業が不可欠である。改めて、一人一人が尊重される社会をどのように築いていくか考えさせる機会としたい。

(3) 教材について

【教材の概要】

本教材は、筆者の体験を47歳になって書いた作品。筆者の小学生のころのいじめの体験を切々と語り、歳月を経ても残るその苦しみに、いじめの卑劣さを知る手記である。貧しく身なりの汚い同級生T子はいじめ抜いたことへの反省と懺悔の気持ちが描かれている。

【教材文活用の視点】

T子は幼くして母を亡くし、弟たちの母親代わりを務めていた。父は魚の行商をしていたが、家計は経済的にも恵まれず、彼女の身なりは清潔感に欠けるものであった。筆者は六年生のとき、先頭に立ってT子はいじめた。ある日、漢字の小テストで、T子の答案用紙をカンニングしてしまう。

その結果、筆者は満点を取り最高得点者になる。しかし、カンニングをしなければT子が最高得点者になるところだった。筆者は自分の不正行為を棚上げし、友人と共にT子がカンニングしたとはやし立てる。自分のやっていることが罪だと認識しながらも、T子を責めている人間の醜さと弱さを取り上げられている。T子への罪悪感を実感しつつも、筆者は謝罪することもなく卒業式を迎えてしまう。

その日の夜、筆者は配布された「卒業文集」を読み、衝撃を受ける。T子の作文の、最後の二行には『私が今一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です。』とあった。この二行の言葉に果てもなく涙腺が緩み、溢れる涙で枕を濡れに濡らした筆者は、T子の深い悲しみと苦しみを知り、深く反省するのである。三十年以上の歳月が経っても、筆者の心から離れない懺悔の念から、人間らしく生きることの意義を考えさせることができる教材である。

いじめや差別、偏見を断固として許さないという道徳的判断力につなげ、正義感を培うことができるよう指導する。

【教材分析】

場面や登場人物の言動	心の動き	○基本発問 ◎中心発問	発問の意図 (関連価値)
T子は六年生のとき、筆者と児童数名にいじめられていた。	・学校に行きたくない。 ・自分はいなくても良い存在なのでは。	「登場人物の関係性を理解しながら、ここにはどんな問題があるのか考えてみましょう。」	○T子の家庭環境などの背景も理解させた上で、いじめられる側の辛さに共感させる。
筆者は、卒業文集最後の二行の言葉に、果てもなく涙腺が緩み、溢れる涙で枕を濡れに濡らした。	・何というひどい仕打ちをしたのだ。 ・謝って許されることではないが、謝りたい。		○負い目を感じながらも、児童数名とT子を責めた醜さを理解させた上で、いじめた側の苦しみに気付かせる。
筆者は、自分がカンニングして最高得点者になったことを後ろめたく思っていたが、児童数名の騒ぎに乗り、T子を責める発言をしてしまった。	・私は弱者であり、勇気がなく、卑劣な人間だ。 ・本当は土下座して謝りたい。	◎「1. 筆者は土下座して謝りたかったにもかかわらず、なぜ児童数名に便乗し得意気になってしまったのでしょうか。」(カンニング後の場面) 「2. 悪いと分かっているのに、無くならないいじめ。この問題に向き合うためには、どのような考え方が大切でしょうか。」 Ⓜ「いじめはどうして、無くならないのでしょうか。」	○改めて、自分のこととして「いじめ」を捉える。誰もがあつてはならないと考えているいじめ。しかし、無くなっていかない現実がある。この問題に対して、何ができるのか。どんな判断ができるかを、理由と共に考えさせる。

4 年間指導計画における位置づけ

○5月…主題名「いじめを許さない心」(本時)

教材名「卒業文集最後の二行」

C 公正、公平、社会正義

公正、公平を重んじるよりよい社会の実現に向かうための道徳的判断力を育てる。

○9月…主題名「偏見のない社会の実現」

教材名「明日、みんなで着よう」

C 公正、公平、社会正義

社会正義に基づいた実践意欲と態度を育む。

○2月…主題名「公平に接することの大切さ」

教材名「クロスプレー」

C 公正、公平、社会正義

公正、公平な社会を築いていこうとする心情を育てる。

5 指導に当たって

(1) 生徒の考えを広げ、深めるための工夫

導入において、小学校時代の「卒業文集」の内容を考えさせるようにした。大抵の生徒は、将来の夢や行事など、自分にとって成長できたエピソードや楽しい印象をもった日々の思い出を振り返る。その後、「卒業文集」という題材では予想しないであろう教材の内容を知ること、教材に引き込ませ、今回の主題に向かう意欲をもたせたい。

(2) 発問構成の工夫

展開において、「悪いと分かっているのに、無くならないいじめ。この問題に向き合うためには、どのような考え方が大切でしょうか」という発問に対し、まず自己との対話で意見を整理させる。その後、グループで意見を交流し議論につなげる。発表より議論の時間を重視することで、一人一人が多面的・多角的な価値をより確実に捉えられるようにする。

(3) 終末の工夫

終末の説話で「いじめた側」である筆者、そして「いじめられた側」がその後どのように感じているか、それぞれの意見を理解させるようにした。考え方の相違を理解することで、現在もしくは今後の自分が直面するであろう道徳的諸問題に対して、よりよく生きるための道徳的判断をするための選択肢の蓄積が図れるようにする。

6 本時

(1) 学習指導過程

	○主な学習活動と主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 ★評価の視点
導入 (3分)	○「小学校時代に、卒業文集を作成したことがあると思います。皆さんはどんなことを文章にしましたか。」 ・将来の夢、行事、仲間との思い出等…。	◇数名を指名し、自由に発言させる。 ◇卒業文集と内容項目がどのようなつながりがあるのか予想しながら、範読を聞かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習テーマ：差別や偏見のない社会の実現に向けて </div>		
展開 (14分)	1、本時の読み物教材の範読を聞く。 いじめた側と、いじめられた側の確認。 いじめた → 「イチノへ」(私=筆者) 児童数名 いじめられた → T子 ○「登場人物の関係性を理解しながら、ここにはどんな問題があるのか考えてみましょう。」(筆者) () ・いじめのきっかけを作っている。 ・謝りたいのに、いじめをやめられていない。(T子) ・先生に言わない。言えない。 ・ただ、耐え続けている。	◇和やかな導入の雰囲気から、真剣な雰囲気に引き込んでいく。 ◇数名を指名し口頭で答えさせ、板書する。 ◇T子の心の痛みを痛感し、心ない行為を猛省する前に、筆者が自己を正当化していることを捉えさせる。 ◇T子の痛みや心情を共感的に受容し、想像させることを通して、いじめの残酷さと非情さを感じ取らせる。
(6分)	2、自分の意見を考え、グループで議論させる。 ◎「1. 筆者は土下座して謝りたかったにもかかわらず、なぜ児童数名に便乗し得意気になってしまったのでしょうか。」(カンニング後) ・弱い自分を正当化するため。 ・自分がいじめられる立場になるかもしれないことを恐れたから。 「2. 悪いと分かっているのに、無くならないいじめ。この問題に向き合うためには、どのような考え方が大切でしょうか。」 ㊦「いじめは悪いと分かっているのに、なぜ起きてしまうのでしょうか。」	◇記入はせず、近くの数名と議論し、深めさせる。 ◇数名に発表させ、板書する。 ◇「いじめを苦に命を落としてしまう人もいる」ということも踏まえ、集団の一員として真剣に考えさせる。 ◇個人で考える時間、グループで議論する時間を十分に確保する。 ◇班長を中心に4～6名で議論させる。
個人(5分) ↓ 集団(8分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の意見・考えを整理(個人) → 議論(集団で意見・考えの共有)  議論を通して、多様な意見・考えと出会い、自分の意見・考えを振り返る。 </div>	

<p>(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・注意できる仲間をもつ。増やしていく（傍観者でいてはいけないから）。 ・信頼できる人に相談する（自分一人の問題ではないから）。 ・相手の立場を想像して行動する。 ・人の命に関わるということを意識する。 <p>3、代表して1～2グループに、議論した内容を発表させる。 （個人的に発表する者がいれば指名する。時間の関係で臨機応変に対応。）</p>	<p>◇議論した内容は、各グループで記録者1名がロイロノートに記入する。</p> <p>◇意見をまとめるのではなく、自分の意見を発表し交流することで、新しい発見に出会うことが大切、そこから自分の考えが変化してよいのだと理解させる。</p> <p>★（ア）いじめに対しての愚かさや、誰に対しても公正、公平にすることの大切さを、多面的・多角的に考えることができたか。 （ロイロノート・話し合い）</p> <p>◇聞く姿勢を整えさせる。</p> <p>◇なぜそう考えたのか、理由も発表させる。</p>
<p>終末</p> <p>(4分)</p> <p>(6分)</p>	<p>4、筆者「イチノへ」のその後を知る。</p> <p>5、同窓会のエピソード（いじめられた側が同窓会に参加できない内容）を説話する。</p> <p>6、ロイロノート（タブレット）に、授業全体の感想を記入し共有する。</p>	<p>◇30年間も「T子」に謝ることができない筆者「イチノへ」の気持ちを想像させる。</p> <p>◇いじめられた側にとって、過去の記憶は忘れ去りたいものであり、だからこそいじめは取返しのつかないものだということを伝える。</p> <p>◇改めて「いじめは絶対に許されない」それにつながる「いじり・からかいも許されない」ということを伝える。</p> <p>★（イ）これまでの授業内容をふまえて、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会を実現していこうとする道徳的判断力を深める自分の意見・考えを改めて考えているか。</p> <p>★（イ）「いじめは中々なくせないものではあるが、なくしていかなければならない」という前提に立って、改めて自分の考えに目を向けているか。 （ロイロノート）</p>

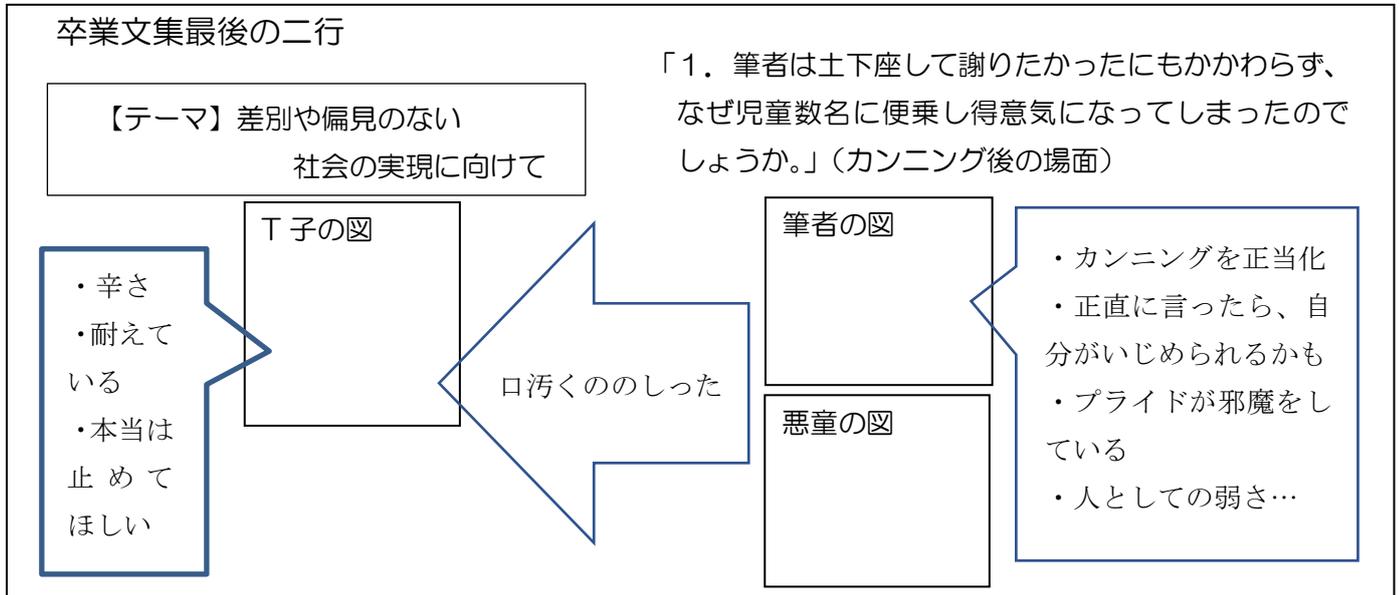
(2) 評価

(ア) いじめに対しての愚かさや、誰に対しても公正、公平にすることの大切さを、多面的・多角的

に考えることができたか。

(イ) 誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会を実現していこうとする道徳的判断力を深めるために、自分自身との関わりから深く考えることができたか。

(3) 板書計画



(別：モニター … ロイロノートの生徒の意見を表示〈終末の感想も〉)

「2. 悪いと分かっているのに、無くならないいじめ。この問題に向き合うためには、どのような考え方が大切でしょうか。」

- ・注意できる仲間をもつ。増やしていく。
- ・信頼できる人に相談する。
- ・相手の立場を想像して行動する。
- ・人の命に関わるということを意識する。

(4) 授業観察の視点

- ① 生徒の考えを広げ深める授業展開であったか。
- ② 発問構成や補助的発問の設定は効果的なものであったか。
- ③ 教材の扱い方は生徒の思考を広げたり、振り返ったりするのに有効であったか。

※ 今回はワークシートを使用せず、タブレット（ロイロノート）で授業を進めます。